

国
語注
意

1. 監督者の合図があるまでは問題冊子と解答用紙を開かないでください。
2. 別紙の解答用紙は、マークシート解答用紙と記述解答用紙とに分かれています。指定された解答欄をまちがえないように注意してください。マークシート解答欄の余白は使用しないでください。
3. マークシート解答用紙は直接コンピューターにかけますので、折りまげたり、よごしたりしないでください。また枠で囲まれた部分以外には記入しないでください。
4. マークシート解答用紙にマークするときは該当する○にはつきりとマークしてください。
マークのしかた (良い例) ●
(悪い例) ○ ⊗ ⊙ ⊖
5. (万年筆、ボールペンなどは使用してはいけません)
マークシート解答用紙に誤ってマークした場合には、消しゴムで跡が残らないようにしていねいに消し、消しかすをきれいに払ってください。
6. 試験開始後、マークシート解答用紙には氏名、受験番号を記入し、さらにその番号をマークしてください。なお、受験番号を記入するときにはマークシート解答用紙の〔受験番号記入上の注意〕をよく読んで、まちがいのないようにしてください。
7. 記述解答用紙には、氏名、受験番号を記入してください。
8. 試験問題はこの冊子の一〜九ページに記載されています。
9. 問題冊子の余白部分は、メモとして利用して構いません。
10. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ってください。

I 次の文章を読み、後の問に答えよ。

若い頃には地面というものをどう感じていたのだろう。安泰なること自明なものと感じていたに決まっている。夜半の裏町の家々が軒並みに鳴り出したのを、何の騒ぎだと怪しみながら平然として歩いていた。音のおさまった頃に、地震かと思ったただけだった。やはり夜道で石塀の傾きかかるのを両手で支えて踏んばるうちに、仰向けに押し返されそうになり、尻餅をついて我に返った。あの時は地面が傾いた。酒場を出てにわかに酔いのまわったところだった。

1。

病院からひとまず退院してきた知人と、そのお宅の近くの喫茶店で待ち合わせたことがある。お互いに六十代のなかばの頃だった。先に店に着いて待っていると、まもなく知人は思いのほか元気な足取りで現われ、店の内の私に笑いかけながら入口の三段ばかりの、急でもない階段に足をかけたところで蹴つまずいて前へのめった。倒れはしたがゆるい段のことで両手をつく程度で済んですぐに立ちあがり、階段をあがったところで振り返り、ひとりで笑って、幾度もうなずいていた。こんなところで転ぶようになったか、と自身に言いふくめるようなうなずき方だった。半月ほど後に亡くなった。

歩行とは前へのめるのをひと足ずつ先送りすることにほかならないと言われる。一歩ごとに片足が地面から浮いて、天辺に重い頭をのせて突っ立った人体の傾きかかるのを、もう片足が支えて送る。

2 微妙な平衡感覚を要求することのようだ。

それを自明のこととして、走りもすれば跳ねもするが、病んだり老いたりすれば、容易ではないことを知らされる。つくづくと自身に言いふくめなくてはならぬ折りもある。

はじめは四本の足、ついで二本の足、やがて三本の足になるのは何か、とはスフィックスの掛けた謎である。この怪物に立ち向かってその謎に答えられなかった者は取って喰われる。這々から立つて歩きそめた幼児は両手を肩の上へあげて歩く。樹上生活の猿の名残りかと思っていたが、身体を垂直に保つためらしい。その域を抜けると、ばたばたと走りまわる。親は叱るが、

2

走ることしかできない。走っていないとまだ平衡を保ちにくいと見える。そして年寄りはずとめて背すじを伸ばすようになどと言われているが、腰は曲がって三本足、杖をついて歩くのが自然で、やすらかなのかもしれない。

しかしスフィックスの謎はもうひとつ、ついにはその
4 もなくなるといふのを落としてはいいか。いや、言うにも
及ばぬことだったのだろう。人は寝ついたままもなくという時代だったに違いない。今の世では寿命が延びて、医療も進んで、
寝ついてからが長くなった。寝たきり日数を経れば、空間と時間がしばしば変質を来たし、自明ではなくなる。とりわけ夜の寝
覚めには、水平と垂直すらしばらくつかめなくなる。まして昨日今日明日という区別が不可解に、おそろしいほど恣意徒勞に感
じられる。すべて、おのれが空間と時間の中心からはずれたところから来る。虚空に放り出されたにひとしい。どこにも中心が
なければ、遠近もない。

夜中の病院の寝静まった廊下から、人の呻く声^{うめ}が伝わってくる。痛み⁶に苦しんでいるようでもない。呻くほどの痛みなら、呼
び出しのボタンを押せば人が駆けつける。それよりもやるせなさ、その文字どおりの、身の置きどころのなさ、それが刻々と苦
しい。時の刻みが、その刻々のあまり、停まったようになる。人の声や物音が聞こえてくれば、耳をやるにつれて空間がもど
り、時間も流れ出すのに、ひとたび人に手間をかければ際限もなくなりそう⁵で遠慮されて、
どうにか空間の中心につなぎとめようとしているらしい。

あるいは寝たきりの病人にかぎらず、人は夜々、眠りの深い底に着いたところで、おなじようになるのかもしれない。壮健な
人でも思いあたる節があるのではないか。人は夜々の眠りの中で生死の境に入るのを、覚めては知らずにいる、と言った古人も
あったようだ。空間の中心にあると身体が感じていなければ、おそらく眠れない。時間の流れとともにあるのでなければ、眠り
はやすらかでない。しかし眠りの深さがきまると、時間も空間もなく、どこにも中心のない虚空へ投げ出され、寄る辺のなさ
に、呻くか喘ぐ^{あえ}か知れないが、身は悶える^{もた}。若ければ素速く眠りの浅瀬に逃げて難もなく安眠を続けるが、年寄り⁷は寝覚めす
る。悶えるには体力が要る。

実際に喘いで寝覚めすることもある。息を詰めていたらしい。夢見が悪かったようだが、どんな夢を見たか、思い出せない。
ただ悶えた後のように、全身がぐったりしている。しかし寝乱れた跡も見えない。年を取るにつれて寝返りも打てなくなってい
る。年寄りはすべてにわたって脆^{もろ}くなっているの

、と年甲斐もないことをしたように呆れて、浅い平らかな眠りを

待つ。

(古井由吉「野の末」より)

問一 空欄1に入るもつとも適切な言葉を次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート a)。

- ① 地面への信頼が、いくぶん揺るがされた
- ② すぐに立ちあがり、すたすたと歩き出した
- ③ そのまますっと、身動きがとれなかった
- ④ 常ならぬ感覚に、しばし途方に暮れた
- ⑤ 飲みすぎには注意せねばと、自らを戒めた

問二 二箇所の空欄2に入るもつとも適切な語を次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート b)。

- ① あまつさえ ② いっそ ③ くしくも ④ じつは ⑤ むしろ

問三 傍線部3「つくづくと自身に言いふくめなくてはならぬ折り」とはどのようなことか、もつとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート c)。

- ① 体の衰えを忘れて油断してしまったとき
- ② 平衡感覚に自信を失ってしまったとき
- ③ 突発的な出来事に襲われて混乱してしまったとき
- ④ 走ったり跳ねたりできなくなってしまったとき
- ⑤ 酩酊めいていして前後不覚になってしまったとき

問四 空欄4に入るもつとも適切な語を次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート d)。

- ① 足 ② 区別 ③ 杖 ④ 謎 ⑤ 平衡

問五 空欄5に入るもつとも適切な言葉を次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート e)。

- ① あえて眠りに抗うことによって
② 苦しみを演じることによって
③ 自身の声を聞くことによって
④ 手で何かをつかむことによって
⑤ ひとりの世界に閉じこもることによって

問六 傍線部6「おなじようになる」とはどういうことか、記述解答用紙16の解答欄にあわせ、文中の言葉を用いて五字以上十字以内で書け。

問七 空欄7に入るもつとも適切な言葉を次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート f)。

- ① あまり深く眠るものではない
② 些細な夢に動じるものではない
③ さほど動かずとも悶えてしまう
④ 寝返りにもこれほど苦勞するのか
⑤ 夜ごと生死の境に入ってしまう

問八 本文で筆者が述べている内容に合致しているものを次からひとつ選び、その数字をマークせよ（解答欄はマークシート

g
）。

- ① 若い頃には自らの平衡感覚に不安を感じていなかった。
- ② 気をつけていれば年をとっても歩行に問題が生じることはない。
- ③ 年寄りには背すじを伸ばして歩くよう心掛ける必要がある。
- ④ 日々の眠りの中で生死の境に入っていると自覚している。
- ⑤ 年寄りはいったん眠るとなかなか目を覚ますことができない。

Ⅱ A 次の1～3の（ ）内のカタカナを漢字に直し、4～6の（ ）内の漢字の読みをひらがなで記せ（解答欄は記述解答用紙Ⅱ1～6）。

- 1 彼女とは全く（メンシキ）がない。
- 2 昨日、国内線の（トウジョウ）手続きでシステム障害が発生しました。
- 3 新聞記事を読み、真つ先に（ノウリ）をよぎった人物がいる。
- 4 審議の流れによつては、決定事項でさえ（覆）ることもある。
- 5 彼は母親に（溺愛）されて育つた。
- 6 格差社会で（利那）主義の若者が増えつつあるという。

Ⅱ B 次の7～10の（ ）内のカタカナと同じ漢字が当てはまるものを①～⑤からひとつ選び、その数字をマークせよ（解答欄はマークシート h ～ k ）。

- 7 会長の（エイ）断により倒産の危機を免れた。
① 「エイ」語 ② 「エイ」響 ③ 「エイ」利 ④ 護「エイ」 ⑤ 「エイ」久
- 8 説明は簡（ケツ）で的確であることが望ましい。
① 完「ケツ」編 ② 解「ケツ」策 ③ 出「ケツ」通知 ④ 清「ケツ」な環境 ⑤ 「ケツ」脈
- 9 この薬の効果について、私は（カイ）疑的だ。
① 「カイ」顧展 ② 不愉「カイ」 ③ 「カイ」厳令 ④ 臨「カイ」点 ⑤ 「カイ」古趣味
- 10 犯罪を（テキ）発する。
① 指「テキ」 ② 点「テキ」 ③ 「テキ」任 ④ 警「テキ」 ⑤ 匹「テキ」

Ⅲ

大晦日の夜、ある寺には参詣者が三人しか集まらなかった。住職は説教を取りやめることにし、集まった三人に、賽銭を取り返して帰るようにと勧める。次の文章を読み、後の問に答えよ。

(住職)「皆、世渡りの事どもにからまされ、参詣もなきところに、おのおのきどく千万、ここを以て信心、如来も、いそがしき中に足をはこび給ふを、損にはせさせ給はぬなり。^{1A} 金の台帳に付けおかせられて、未来にて、きつと算用し給ふなれば、かならずかならず捨てたるとおぼしめすな。² 仏は慈悲第一、すこしもいつはりは御座らぬ、たのもしうおぼしめせ」

時に、ひとりの婆泪をこぼし、「只今のありがたい事をうけたまはりまして、さてもさても我が心底の恥づかしう御座ります。今夜の事、3 にて参りましたでは御座らぬ。ひとりあるせがれめが、つねづね身過に油断いたしまして、借錢に乞

ひたてられました、^{注一} 節季節季に、さまさま作り事申してのがれましたが、この節季の身拔、^{注二} 何とも分別あたはず。⁴ 私には、『道場へまゐれ。そのあとにて見えぬとなげき出し、近所の衆をたのみ、太鼓、鉦をたたきたづね、これにて夜をあかして済ますべし。ふるい事ながら、大晦日の夜のお婆を返せは我等が仕出し』と思案して、^{注三} 世のふしやうなればとて、⁵ あたりの衆におもはぬやつかいかくる事、これ大きな罪」とぞなげきける。⁶

(井原西鶴『世間胸算用』より)

注一 身過 生計を立てること

注二 節季 勘定の支払い日

注三 身拔 責任を逃れること

問一 傍線部 1 A「給ふ」、1 B「給はぬ」、1 C「給ふ」の動作主の組み合わせとしてもっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート 1)。

- | | | | |
|---|-----------|-----------|--------|
| ① | 1 A 如来 | 1 B 住職 | 1 C 住職 |
| ② | 1 A 如来 | 1 B 三人の信者 | 1 C 如来 |
| ③ | 1 A 三人の信者 | 1 B 住職 | 1 C 住職 |
| ④ | 1 A 三人の信者 | 1 B 如来 | 1 C 如来 |
| ⑤ | 1 A 住職 | 1 B 住職 | 1 C 如来 |

問二 傍線部 2「捨てたるとおぼしめすな」の文中での意味としてもっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート m)。

- ① 金を無駄にしたとは思わないでください
- ② 出家しようとは思わないでください
- ③ 信心を捨てようと思わないでください
- ④ 仏に顧みられないとは思わないでください
- ⑤ 別の寺に行こうとは思わないでください

問三 空欄 3 に入る語としてもっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート n)。

- ① いつはり
- ② 商売
- ③ 信心
- ④ たわむれ
- ⑤ 世渡り

問四 傍線部 4「作り事」は、本文中では、借金取りから逃れるためにつく嘘をさす。作り事の考案者およびその内容を記述解答用紙Ⅲ 4 の解答欄にあわせて書け。

(五字以内) は、(十字以内) と騒ぎたてようと考えた。

問五 傍線部5「分別あたはず」の文中での意味としてもっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ（解答欄はマークシート0）。

- ① うまく仕分けできない
- ② 遠慮してしまう
- ③ 思慮が足りない
- ④ 善悪の判断がつけられない
- ⑤ 手立てがつかない

問六 傍線部6「仕出し」の文中での意味としてもっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ（解答欄はマークシートp）。

- ① 工夫
- ② 勤勉
- ③ 奉公
- ④ 装い
- ⑤ 料理